

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成25年1月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4697200014
法人名	株式会社 EGUCHI
事業所名	グループホーム あじさい
所在地	鹿児島県肝属郡東串良町池之原1998番地1 (電話) 0994-63-5919
自己評価作成日	平成24年11月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成25年1月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者が元気で楽しく、生活が出来るように職員は楽しい雰囲気作りに努めています。
- ・入居者の意思や希望に添えるような介護を心がけています。
- ・自宅で生活されていたように、馴染みのある場所での買い物や受診に努めています。
- ・心身機能低下予防の為、ドライブや外出の機会を増やし、歩行の機会や季節を感じられるような場を提供していくことができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホームは、鹿屋市に隣接する地域にあり、周囲に同法人の複数の介護事業所があり、協力体制が整備されている。ホームのある地域は、園芸が盛んで、地区の農業青年部から、新鮮な野菜がトラックで届いたりする。また、地区の多くの団体からボランティアを受けている。中学生の職場体験を受け入れたり、近くの小学生が下校時に寄って遊ぶなど、地域住民との交流が盛んである。代表者は、率先して地域貢献に努めており、地域や学校の行事に積極的に参加している。
- ・運営推進会議では、外部評価の結果の報告や事業所の状況報告がなされ、委員からの意見や助言などをもとに、サービスの向上に活かしている。
- ・管理者は、職員を育てることに力を入れ、研修等への出席も積極的に奨励している。職員は利用者の心身の機能を改善するため、ケア対応等の更なる向上に意欲的である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	社長も含め職員全員で作り上げた理念は年1回の見直しを行い、毎月行なっているミーティングの中で理念に基づく具体的なケアの方法を職員全体で話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。	職員全員で話し合っ、地域との関係性を重視した独自の理念を作り上げている。ミーティング等で理念を話し合い、具体的な支援につながるように、共有と実践を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加しています。散歩に出掛けた際には挨拶を交わしたり、日頃から関係作りを心掛けています。	地域行事に積極的に参加し、散歩や買い物の際には、挨拶や会話を楽しんでいる。団体からの野菜の差し入れがあったり、中学生の職場体験やボランティアを受け入れたりして、地域との交流が日常的に行われている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	災害時等の避難所として利用していただけるよう、運営推進会で話し合いをおこなっている。また、救急訓練にも積極的に参加し、地域の方々の役に立てるよう努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの状況だけではなく、施設サービスへの要望助言の項目を設け、様々な意見を交換できるようにしている。	会議は町役場職員や家族代表等の各分野の委員で構成され、定期的に開催されている。外部評価の報告や事業運営の報告がされ、認知症対応についての知識普及活動をホームで取り組むこと等、そこでの意見をサービス向上に活かし、開かれたホームとしての取り組みによって、地域の理解を深めていきたいと努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	経営者、管理者は市町村へ出向き、担当者との交流の機会（事業所の考え方、運営や現場の事情等を伝える場）を作る。また、相談等もその都度行なうようにしている。	町担当者とは会議などを通して協力関係ができています。利用者の受け入れやプランの相談等、情報を交換し、アドバイスを受けるなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、ミーティング等で身体拘束に関する勉強会や事例検討を行なっている。また、外部の勉強会にも、参加している。	「身体拘束排除マニュアル」を基本に、身体拘束廃止委員会で検討結果を、ミーティング等で話し合い、個別にケアの検討を行ったりして、身体拘束をしないケアに取り組み、職員の共通認識を図っている。昼間は玄関の施錠はせずに、外に出る入居者には、職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画の中で高齢者虐待防止教育を計画している。ミーティング等においては常に話し合いの機会を設け、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	新入職員に対しては、外部研修の機会を設け、必要な時に支援を行なえるように努めている。現在のところ事例はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約には十分な時間を取り、解りやすく丁寧な説明を心掛けている。説明の際は一つ一つの項目を説明し終えた後に、理解できないところはないか確認しながら進めている。特に重要な点については、詳しく説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用者やサービスの状況だけではなく、施設サービスへの要望助言の項目を設け、様々な意見を交換できるようにしている。</p>	<p>利用者や家族には、日頃から何でも言ってもらえる雰囲気作りに留意し、家族会や面会の機会に意見を出してもらおう工夫をしている。遠方や面会に来られない家族には、便りを出して現状を報告し、思いを伺っている。出された意見や要望等は、職員で話し合い、運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティング、勉強会、カンファレンス、各委員会を定期的に行い、職員からの意見や提案を聞く機会を多く持っている。また、日頃から職員とコミュニケーションを図るようつとめている。</p>	<p>管理者は、会議やミーティング時に、職員の意見や提案を聞く機会を設け、また、個別に出された職員の意見等を取りまとめている。ケアの見直しに関することが多く、ミーティングで検討し、運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>ミーティング、勉強会、カンファレンス、各委員会を定期的に行い、介護の質の向上に生かせるよう努めている。また、研修計画を立て、個々の職員に応じた学びの機会を提供できるようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間研修計画を立て、職員の経験や役割に応じて研修受講者を決めている。また、事業所内で委員会活動を行い、必要に応じて外部講師を呼ぶ等して知識・技術の向上に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム協議会に入会しており、研修会や勉強会を通して同業者との交流を持ち、サービスの質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、可能な限り事前面談として本人にお会いし、生活状態、心身の状況、本人の思い等に向き合い、受け止めることが出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初めてサービスの利用の相談に来られた際は、家族とのコミュニケーションを大切にし、家族の困っている事や不安な事、今までのサービス利用状況等をゆっくり聞くように努め、その上で次の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思い、状況等を確認し、ゆっくりと話を聞いた上で必要なサービスを提供できるようように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や洗濯等、家事全般にわたってできることを一緒に行なえるように努めている。また、年配者の知恵や昔の習慣等、解らない事は尋ねるようにし、共に支えあう関係を築いていくよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は家族の想いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人と一緒に支える為に家族と同じような想いで支援している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を把握し、関係が途切れる事がないよう、出向いたり、来ていただいたりしている。</p>	<p>入所しても、今までの生活の延長線であるように、かかりつけ医への通院や馴染みの店での買い物などの支援をしている。また、地域で暮らす知人や身内の人との関係を継続できるように支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>皆同じ町内であり、顔見知りの方々が多数いる為関係を把握し、関係が途切れる事がないよう、出向いたり、来ていただいたりしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了後も、必要に応じて本人と面会を行ったり、家族に状況を聞く等して、相談や支援に心がけている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の言動や表情を観察し、思いや意向の把握に努めている。また、誕生日会の食事メニューや飾り付け等については、利用者が選択、決定出来るように工夫している。	日々の関わりの中で、意見や要望を聞いたり、様子を観察して、表情などから思いや意向の把握に努めている。家族や関係者からの情報も得るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始の際、面談等により本人や家族、関係者からその方独自の生活歴やライフスタイル、個性や価値観等を聞き取り、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的なモニタリング等により、利用者一人ひとりの好む生活スタイルを把握すると共に、行動や小さな動作から本人の全体像を把握するよう努めている。また、出来る事に注目し、その方全体の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の意向や要望を聴取した上で、毎月のカンファレンスでの意見や担当職員のモニタリング、医師の意見やアドバイス等を反映した介護計画を作成している。また、ミーティングで計画の再確認を行なうと共に、その意義や必要性について話し合いを行なっている。</p>	<p>本人や家族・関係者からの意向を汲み取った上で、担当者を中心に介護計画を作成している。毎月、担当職員がモニタリングを実施し、ミーティングで確認するとともに現状に即した計画を検討している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録にて、身体状況や日々の暮らしの様子、エピソード等を記録しており、いつでも職員が確認できるようにしている。また、朝夕の申し送りや業務開始前の日誌の確認を業務づけている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の要望に応じて、通院や外出の支援を行なうなど柔軟に対応している。利用者が入院された場合は、医療機関の関係者と話しあいながら、早期退院に向けた働きかけを行なっている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティアとの交流や協働を行なうように努めている。消防、町内との連携も取りながら、交流の機会を継続し、もてるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人や家族が希望するかかりつけ医を受診できるようにしており、受診の際はバイタルチェック表や個別記録を持参して、医師に情報提供するなどし、適切な医療が受けられるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望しているかかりつけ医の受診が、継続できるように支援している。入居後の専門医等への初診は家族の同行を依頼している。診察結果は、そのつど家族と共有し、適切な心身の管理に努めている。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者の体調不良時や急変時等は常に看護職員と連携を取り、適切な対応ができるように努めている。週1で訪問看護師に来て頂き体調管理や指導を受けている。</p>	/	/
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は出来る限り病院に見舞いを行い、環境の変化に伴うダメージが少しでも軽減できるように利用者との関係の継続に努めている。また、医師や家族とも連絡を取り合い、利用者の早期退院と適切な看護が受けられるように情報交換を行なっている。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>できるだけ早い時期から、本人やご家族、かかりつけ医等と話し合いを行い、その時々本人やご家族の意向を確認しながら、対応方針の共有を図っている。また、事業所が対応し得る最大のケアについての説明も行なっている。</p>	<p>医療連携体制を導入し、看取り指針を作成、家族と連携し看取りに取り組んでいる。重度化や終末期に伴う対応について、事業所が取り得るケアの方針を、本人と家族に説明し支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時対応マニュアルにてミーティング時に勉強会を行なっている。また、職員個々においてもマニュアルを繰り返し見直し学びを行なうように努めている。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の協力のもと、避難訓練や救命訓練を行っている。事業所を災害時の避難場所とすることを提案するなど、地域との協力関係を築けるように努めている。</p>	<p>避難訓練や救命訓練を、年2回夜間想定で消防署の指導のもと実施している。社内事業所や近隣の事業所職員との協力体制もできている。災害時の水や食料の備蓄もされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉使いや声かけに際して利用者の尊厳重視に努め、職員の意識向上や具体的な対応方法についてはミーティング等において勉強会を行なっている。</p>	<p>ミーティング時に勉強会を行い、利用者の尊厳や性格・思いに配慮しながらさりげないケアや言葉かけに努めている。入室時は、ノックや声かけを行うようにしている。職員の採用時、個人情報保護についての誓約書をとっている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日課を優先するのではなく、本人の希望を聞き取り、優先して行なえるように努めている。また、支援の中で自己決定できるような場面をたくさん作れるよう声かけを行なっている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な一日の流れはあるが、時間を区切った過ごし方はしていない。一人ひとりの体調や状況に配慮し、本人の気持ちを尊重して、出来るだけ個別性のある支援を行なうように努めている。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>身だしなみやおしゃれについては、できる限り本人の意向で決めていただくように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のその日の状況に応じて買い物、調理、盛り付け、片付け等を一緒に行なうことができるように努めている。食事の時は、会話をしながら、楽しい雰囲気を作るよう心がけている。	菜園で採った旬の食材を使ったり、利用者の希望を聞いて献立を作っている。調理や後片づけなど職員と一緒にしている。誕生会や月1回は外食に出かけ、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分の摂取量を一日を通して記録し、状態の把握に努め、必要に応じて栄養補助食品やゼリーの摂取を支援している。また、栄養士にアドバイスをもらいながら献立を作成し、食事が偏らないように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、利用者に応じて見守りや介助を行っている。義歯の利用者には、毎晩義歯洗浄剤の使用を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに合わせたトイレ誘導を行い、出来るだけトイレでの排泄に向けた支援を行なっている。また、それぞれの利用者に応じた排泄チェック表を利用し、心身の状態と排泄の関連性も考慮している。	自尊心に配慮しながら、トイレでの排泄を支援している。個々の排泄パターンを把握してリハビリパンツや失禁パンツを昼夜で使い分けている。また、排泄に重要な下肢筋力の体操にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時やおやつ時に便通に良い食材を取り入れるようにしている。また、かかりつけ医に相談を行い、それぞれの利用者お状態に応じた服薬の介助を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には週3回の入浴介助を行っているが、希望時や清潔保持の必要がある場合はいつでもシャワー浴が行なえるようにしている。入浴状況が定期的に行なえているかわかるように、記録にのこして、管理している。	入浴の順番や同性介助・シャワー浴等の個々の希望を取り入れた対応で、週3回の入浴日を楽しめるように支援している。身体状況により、隣接するショートステイの特殊浴槽で、安全に入浴を楽しめるように支援している。入浴を拒む利用者には、職員や日程を変更するなど対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望時を配慮して、ゆっくり休息がとれるように配慮を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書のファイルにて全職員が服薬の内容を把握できるようにしている。服薬時は誤薬がないように、職員2人で確認をしている。配薬後はチェック表にて記録を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や片付け、園芸や季節の行事等、利用者の知恵や経験を発揮できる場面を作るように努めている。また、誕生日会等楽しみごとや気分転換の支援も多く行なえるように計画している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	本人体調や希望に応じて、日常的散歩や買い物、ドライブ等の機会を多く作り、心身の活性に繋がるように努めている。	日常的には、広い敷地内の散歩や時たま近隣への散歩・買い物等を行っている。月1～2回は外食やドライブで外出支援をしている。年間計画で、花見や地域のイベントにも参加している。車椅子専用の車も準備している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布からお金を出す事で、社会性の維持に繋げており、一人ひとりの希望や力に応じて支援を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	状況に応じて、本人の希望や必要がある場合は、いつでも電話が出来るように声かけや援助を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所は対面キッチンにしており一人ひとりの表情をみながら、調理をし家庭的な雰囲気でごすように配慮している。玄関前には、プランターに四季折々の花を植えてあり、季節を感じながら居心地よく暮らせるようにつくられている。	共用空間は、換気や採光に配慮した明るく開放的な作りで、どこにいても、目が行き届き、人の気配が感じられる。ホールには、数か所に置かれたソファがあり、ゆったりとくつろげるスペースとなっており、居心地よく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや和室等を設置し、その時その時の気分に応じて、好きな場所で過ごせるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの利用者の好みや馴染みの物をご家族に用意して頂いたり、生活スタイルや本人の要望に応じて必要な物を職員が用意して、本人が居心地よく過ごせるように努めている。	ベットと洗面台は、備え付けとなっている。馴染みのタンスやテレビ・冷蔵庫などを持ち込み、お気に入りの写真等を飾るなど、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、玄関、トイレ、浴室等の住環境においては、利用者が安全で自立した生活を送れるように、環境作りを行なっている。また、利用者の状態に応じた環境整備の見直しを行なっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない